



学校だより

さいたま市立浦和別所小学校
令和5年8月29日

〒336-0021 さいたま市南区別所2-5-34 Tel1048-862-2775 Fax048-836-1584 URL <https://urawabessho-e.saitama-city.ed.jp>

心を磨く

校長 持木 信治

38日間という長い夏休みが終わり、2学期がいよいよスタートしました。コロナウイルス感染症が、5類感染症となってから初めての夏休み、行動制限がなく、コロナ以前のように、いろいろな場所に出かけたり、普段できないような体験をしたりして、たくさんの思い出ができたことでしょう。2学期も校外学習や音楽会といった行事がたくさんありますが、学校生活でもぜひ、たくさんの思い出を作ってほしいと思います。



さて、私は、夏休みというと毎年、高校野球に夢中になります。私自身、高校時代は、甲子園を目指した高校球児だったこともあり、全国の予選を勝ち抜いてきた各チームが、選手、スタンド一丸となって真剣勝負に挑む、その姿に勝敗に関係なく、心を打たれます。今年、優勝した慶応高校のエンジョイベースボールは、どんなピンチでも一人ひとりが考えて、楽しそうにプレーしている姿が印象的でした。技術はもちろん、考える力が素晴らしかったです。また、準優勝の仙台育英高校も2年連続決勝進出は見事でしたし、試合後、慶応ナインに敬意の拍手を送る姿勢も大変立派でした。

近年は、テレビで特集が組まれたり、新聞でも大きく取り上げられたりしているので、高校野球の話題に触れることも多いかと思います。見方もいろいろで、強豪校や有名選手に注目したり、ゆかりのある地方の代表校に注目したりするなど、様々な見方がありますが、私は、職業柄、選手以上に指導者に注目しています。毎年、甲子園に出てくるような強豪校はもちろん、初出場を果たした高校まで、いろいろありますが、とにかく、各地の予選を勝ち抜いて優勝し、甲子園に出場するようなチームの指導者は、日頃からどのようなことに重点を置いて、チーム作りをしてきたのか、非常に興味深く見ています。最近では、そういった指導者が著した書籍も多く出ていますので、そのいくつかを夏休みに読んでみました。そして、優れた指導者が大切にしていることには、以下のような共通点があると感じました。

- ・ 勝ち負け以上に、選手の将来を見据えて指導を行い、人材育成に力を注いでいる
- ・ 一人ひとりをよく観察し、良いところを見つけ、励まし続け、見届けを徹底している
- ・ 一人ひとりの自主性を伸ばすため、任せるところは任せ、見守り続ける

心技体とよく言われますが、勝ち負けにばかり目を向けてしまうと「心」を磨くことをおろそかにしてしまいます。しかし、優れた指導者は、野球の技術に限らず、選手一人ひとりの「心」を磨き、人間力の育成に力を注いでいました。そして、これらのことは、本校の子どもたちへの指導にもいかせると感じました。2学期が、いよいよ始まりましたが、各行事はもちろん、日常の指導においても、子どもたち一人ひとりが学力・体力だけでなく、「心」を磨けるよう、教職員一丸となって、教育活動に取り組んでまいります。引き続き、ご理解、ご協力をお願いいたします。

2学期も子どもたちの日常的な活動の様子を、本校HP (<https://urawabessho-e.saitama-city.ed.jp/>)「学校生活」に掲載していきます。もし、よろしかったら、ご覧ください。

【家庭数】

部分がたくさんあります。学力をつけることは、もちろん、「人間としての成長」を

2学期は、音楽会や持久走記録会などの
に

話を2学期の小学生の自主性
チーム作り 人材育成

条件3、勝利至上主義ではなく、選手の将来を見据えて指導を行っている

目先の勝利ばかりにこだわる「勝利至上主義」では選手の人間性は育ちません。

当然、カテゴリーによっては勝利を目指して一生懸命にがんばっていくことでしょう。

しかし、スポーツ、野球を通じて人間的な成長を遂げることができなければスポーツに打ち込む意味がありません。

過剰に「人間形成」と結びつけて、遅刻した選手をずっと走らせているなんて指導は好きではありませんが、「勝てば何をしてもいい」という指導はもはや選手にとって害しかないと思います。

要するに、スポーツマンシップを健全に指導できる指導者が優秀な指導者だと私は考えています。

今年は、毎年、夏休みに甲子園での全国が始まると、高校球児だった頃を思い出し、各試合の結果は、もちろん、その試合に関する新聞記事も必ずチェックするなど、夢中になって見えています。

また、多くの方が、この運営にかかわっていることも事実です。条件5、できない選手にも根気強く指導できる

今年の夏も野球をやっている中学生の息子も一緒になって、今年の優勝校は、どこかな？あの高校のピッチャーやバッターはすごいなどと会話しながら、毎日楽しみに見ていました。私自身、

【家庭数】

もちろん、勝負事ですから、勝ち負けはあります。ただ、その結果以上に、選手一人ひとりが、大会を終えるまでにどのように取り組んできたのかという過程を大切にしてきたのだと感じました。

1. ****個々の選手の尊重****: 指導者が選手たちの個々の能力や弱点を尊重し、それぞれの特性に合った指導を行っている点について掘り下げます。
2. ****基本を重視する哲学****: 指導者が基本的な技術や戦術を重視し、それを繰り返し練習することで選手たちの確固たる基盤を築く姿勢を紹介します。
3. ****チームワークと協力****: 指導者が選手たちにチームワークや協力の重要性を教え、個人の成長だけでなくチーム全体の成功に焦点を置いている点を取り上げます。
4. ****努力と責任****: 指導者が選手たちに努力や責任感を鼓舞し、自己管理の大切さを伝えている様子を伝えます。
5. ****教育的な側面****: 指導者がスポーツを通じて選手たちに人間性や価値観を教えることを重要視している哲学について紹介します。
6. ****失敗からの学び****: 指導者が失敗や挫折を選手たちに対する貴重な学びと捉え、それを次の成長へつなげる方法について取り上げます。

これらのポイントを元に、指導者の指導法と哲学に焦点を当てた学校だよりを構築することができます。具体的なエピソードや引用などを交えて、指導者の姿勢や影響を読者に伝えると良いでしょう。

第105回全国高校野球選手権記念大会が6日、甲子園球場で開幕。開会式が行われ、高知中央の西岡悠慎主将（3年）が選手宣誓を行った。3日の組み合わせ抽選会で立候補した17人の主将の中から抽選で選ばれた。全文は以下の通り。

宣誓

私たちは第105回という節目の年に夢の甲子園球場に立てていることを誇りに思います。

しかし、ここにたどり着くまでたくさんの壁や困難がありました。それを乗り越えられたのは、ともに絆を深め合った仲間、監督、コーチ、そして、たくさんの方の支えがあったからです。

【家庭数】

追いかけて続ける勇気さえあれば夢は必ず叶う、そう信じ、全国高校球児の思いを一投一打に込め、全力で戦い抜くことを誓います。

令和5年、8月6日、選手代表 高知中央高校野球部主将 西岡悠真

そんなチーム方針に惹かれて

大谷 翔平

こうした様々な著書は、の考え方は、小学校にも通じる考え方です。

最近、テレビでもよく取り上げられ、多くのメディアでも取り上げられ、多くの方が目にされているのではないのでしょうか。そんな私ですが、方に注目されていますが、は、でしたし、中学生の息子も野球をやっているということもあり、ここ数年、強豪校はもちろん、

高校野球の見方が、変わってきました。昔は、プロ顔負けの実力をもつ、有名選手の活躍を中心に見ていました。松坂大輔選手や級

最近、高校野球は、多くのメディアで取り上げられ、特集番組もよくやっているの、野球に興味がない方も高校野球の話題を耳にすることは多かったと思います。そんな私ですが、高校野球の

梅雨に入り、雨で肌寒い日やじめじめと蒸し暑い日があり、早く梅雨が明けてくれないかと願う毎日ですが、子どもたちは、そんな天候に関係なく、毎日元気に登校して、学習に取り組んでいます。1学期も残すところ、あと14日となり、ゴールに向けて、最後の仕上げを行う時期になりました。

ポストコロナということで、内容の見直しを図りながら本来の学校の姿に戻すことを目標として進めてきた1学期でしたが、運動会や校外学習、縦割り班活動、学校探検、町探検等の学習活動を従来に近い形で無事に行うことができ、一定の成果を得られたのではないかと考えています。

とくに、「体験活動」が、コロナ以前のように無事に実施できたことは、大変良かったと感じています。



【家庭数】

体験活動について文部科学省は、次のように述べています。

体験活動とは、文字どおり、自分の身体を通して実地に経験する活動のことであり、子どもたちがいわば身体全体で対象に働きかけ、かかわっていく活動のことである。

(中略)

今後の教育において重視されなければならないのは、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」である。
体験活動事例集—体験のスプーマー [豊かな体験活動推進事業より]

私自身、小学生にとって、体験活動は、とても大切だと考えています。ICT化が進み、見たいものがあれば、その写真や動画をいつでもどこでも見られるようになりました。これは、ICTの有効活用ということで、大切なことですが、その一方で直接、ヒト・モノや実社会に触れ、かかわり合う直接体験の体験活動も欠かせません。例えば1年生の生活科の学習で、アサガオの小さな種をそっと土に埋め、毎日欠かさず水をやり、ちょこっと芽を出したのを見つけた時の感動は、写真や動画では、味わえないものです。他にも、4年生の福祉体験の学習で、ちょっとした段差を越えることがいかに大変かは、実際に車椅子に乗ってみないとわかりません。5年生の管弦楽教室、大ホールで聴くオーケストラの生演奏の迫力、音色、拍手や歓声が沸く会場の一体感は、その場にいないと感じられないことです。

また、運動会や縦割り班活動では、活動の中で、仲間と一緒に協力し、協働で課題を解決することでコミュニケーション能力やリーダーシップのスキルを養うことができます。苦労も伴いますが、その経験により協力やチームワークを学べる良い機会になります。体験を通じて学んだことは、記憶にも深く刻まれ、それを自分のものにしていくことで、「経験」となり、生きた力となります。

ICTと体験活動、これからの学校生活になくはならないものだと思わため感じるここまでの3か月でした。1学期も残り14日となりましたが、引き続き、ICTと体験活動を大切に、子どもたちがしっかりと学ぶことができるよう努めてまいります。

子どもたちの日常的な活動の様子を少しでも知っていただきたく、「学校生活」というページを本校HP (<https://urwabessho-e.saitama-city.ed.jp/>)に作成しました。もし、よろしかったら、ご覧ください。